

平成24年度 9月 経営の重点

【通うだけで楽しくてしかたがない、通うだけで助け合う力が育つ「伝説の学校」をつくろう！】

- 学校教育目標・・・「自主貢献」－自主的に行動し、助け合える生徒の育成－
- 目指す生徒像・・・的確に判断できる生徒、自主的に行動できる生徒、助け合いができる生徒
- 目指す教師像・・・一番好きになる教師、気持ちがわかる教師、学び続ける教師
- 3つの重点目標・・・プライド（12の実践）、学力向上（校内研究）、郷土愛（家庭・地域との連携）

<1学期の学校評価生徒アンケートより>

○学校教育目標を覚えた、理解できた生徒：86%、81%

2学期は、全員がその意味を理解し、学校生活のあらゆる場面で、「何ができるかを考え、自ら行動し、助け合える生徒になる」ことを意識させていただきたいと思います！2学期末には全員が学校目標を理解できるようにしたいものです。

○学校生活を楽しいと感じた生徒：88%

部活動：85% 学校行事：89% 委員会・係活動：82%

おおむね楽しく過ごせたという答えでしたが、NOと答えている生徒や無回答、未回答が全校で86名いることを忘れてはなりません。2学期はこの人数をいかに減らしていくかが大きな課題です。

○12の重点目標が達成できたと感じた生徒

- ・「共生の学び合い」…「わかる・できる」：75% 「教えて」：79% 「グループ学習」：82%
- ・「笑顔の挨拶」…72% ・「感動の歌声」…81% ・「感激の清掃」…68%
- ・「愛のふれあい弁当」…55% ・「黙想と写本」…76% ・「継続の家庭学習」…40%

アンケート調査を行った項目について80%を超えた項目は、歌声活動だけでした。本校の伝統である挨拶や清掃について対策を講じなければなりません。また、家庭学習の40%は実に厳しい結果です。30分にも満たない生徒が260人以上もいるということをしかりと受けとめ取り組んでいかなければなりません。

それぞれの重点目標に対する説明を丁寧に行っていかなければなりません。何のために取り組んでいるのか、どういう意味があるのかをわかりやすく学級で説明する必要があります。それも機会をとらえて常に意識させていかなければなりません。

○「伝説の学校」の生徒を意識することができた生徒

- ・「的確に判断する生徒」…65%
- ・「自主的に行動する生徒」…66%
- ・「助け合いができる生徒」…62%

どの項目も学校生活の中でいかに具体的に場面設定していくかが大切です。私たち教職員がこれら日々意識し、生徒に働きかけられるかが鍵です。

学校教育目標や生徒像、教師像については、年度当初に配布した学校経営基本構想を再度読み込み、生徒にわかりやすく説明していただきたい。先生方の学校評価アンケートで意識の低い項目については、そのまま生徒の取り組み結果となって表れています。つまり先生方の意識が変われば生徒の意識が変わり、行動が変わってくるのです。チームで取り組むときは、全員で同じ方向を見て指導しなければなりません。やろうとしてできないのと最初からやらないのでは全く違います。私たちは一つのチームです！

〔9月の重点〕「笑顔創造」

- ルール（マナーと規律）とリレーション（人間関係）を仕切り直す月です。2学期始めの一週間が勝負です！特に始業式からの3日間は意図的に取り組む必要があります！

2学期最初の授業、最初の清掃、最初の聴く姿勢、最初の給食、最初の部活動、最初の係活動等をどう評価し、生徒に返すかが鍵です。1学期何が問題だったのかを想起させ、具体的な改善策を展開していくのがスタートの3日間です。誰でも三日は続くものです。「目指せ！三日坊主」です。四日目に意識し、そこからまた三日坊主を目指していけば2週間はすぐです。私たち教職員が問題意識をどう持つかが大きな鍵です。生徒のよい姿を沢山拾い上げて、具体的に改善していきましょう！

- ・「時間を守る」…開始時刻、終了時刻
- ・「感動の掃除」…自分の分担を黙々と本気になって毎日掃除する生徒がいる風景を！
- ・「黙想と写本」…ねらい・効果を再度説明し、活動がマンネリ化しない工夫を！

- 今月は、体育祭という大きな行事が控えています。チームで指導・支援し、この行事を生徒の手で成功させ、達成感を持たせることです。「湖北中の体育祭でみんなを笑顔にする」これが体育祭を実施する意図です！地域の方々や保護者のみなさんを笑顔にし、元気を届けられる行事のひとつが体育祭です。公開していることの意味をしっかりと捉え、生徒も先生も一体となって、一所懸命取り組む姿をつくっていきましょう！（必死はダメです。余裕がないから！余裕のある一所懸命さが大切！）

特に3年生の生徒会総務、実行委員、応援団の生徒に焦点を当て、リーダーシップを発揮させながら学級や学年としてのまとまりを実感させていかなければなりません。その後の進路実現を個々の問題としてではなく、学年みんなで解決すべき課題として取り組んでいくためにも一体感を体験させる必要があります。1、2年生もそれぞれの学年課題を考えれば、同じように一生懸命取り組むリーダーやフォロワーの姿をつくらなければなりません。組織的に指導・支援する先生方の姿も見せていかなければなりません。

- 次に課題解決型の教科経営、部活動経営、学級経営、学年経営の推進です。チョークと黒板による教え込みの授業ではなく、1時間の学習課題をわかりやすい言葉で表現し、学び合い、解決していく授業の推進です。1学期の先生方のアンケートでは、まだ不十分であると答えた先生方もいました。

昔ながらの一斉授業が未だに展開されているのは、先進諸国では日本ぐらいです。ヨーロッパやアメリカ、アジアの先進国では、自分の考えを相手に聴いてもらい、対話することで課題を解決していく授業が主流となっています。中学校の職員室も世代交代の時代に突入しましたが、頭を柔らかくし、授業そのものを改革していかなければなりません。コミュニケーション能力育成の推進や言語活動の重視、表現力が思考・判断の観点に加わったこと等、改訂の全てが、授業改革に対応するために打ち出されていると考えます。

今月こそ、先生が一方的に説明するだけの講義式の授業から脱却し、生徒の学び合いを授業の中心に置き、課題解決する授業にしていきたいと思います。（先生の話が20%、生徒の活動が80%）

- ・学習課題を明確にする。（青色チョーク枠）
- ・生徒の言葉でまとめる。（赤色チョーク枠）
- ・グループ学習による学び合いの推進（他との関わり合いをつくらせる。「教えて！」が言える教室）
- ・聴き合う関係をつくる。（入れ込むのではなく、引き出す関係をつくる）

※「試行と失敗（T&E）」を繰り返しながら「ゴールの姿」を実現しましょう！